

旧藤間家住宅民俗資料目録 1 一陶磁器 (1) 一

松隈 雄大¹

はじめに

茅ヶ崎市柳島の藤間家は、江戸時代に柳島村の名主を務め、農業を営むとともに廻船業で栄えた旧家である。13 代当主の善五郎(1801~1883)は星潭、柳庵と号し、幕末から明治維新期の政治、外交、社会に関する情報や自身の見聞を記録した『太平年表録』、詩文集『雨窓雑書』など多数の著作や揮毫を残しており、藤間柳庵(以下、柳庵)の名で知られている²。

2017 年 7 月、藤間家より市指定史跡である屋敷地の大部分³と、国登録有形文化財である主屋⁴ならびに付属建物、そして柳庵の遺品をはじめとする膨大な点数の歴史資料や民俗資料、美術工芸品(以下、旧藤間家住宅資料と総称)が茅ヶ崎市に寄贈された。これを受けて当市は 2018 年 4 月に民俗資料館「旧藤間家住宅」を開館し、屋敷地の一部と主屋外観の一般公開を開始した。また旧藤間家住宅資料を広く市民に公開する準備として、同年から茅ヶ崎市文化資料館(以下、文化資料館)が実施主体となり資料調査を進めている。調査が完了した資料については順次目録を作成し、『文化資料館調査研究報告』誌上で公開することとしている。

本稿は旧藤間家住宅資料の民俗資料のうち、陶磁器の目録の第一弾である。かつて文化資料館は藤間家に伝世する磁器の調査を実施し、1993 年発行の『文化資料館調査研究報告』1 に「藤間家の磁器」と題して目録を掲載している⁵。当時の調査では原則として陶器は対象とせず、紙幅の都合により名称のみの記載に止まった資料が多数あった。また前回調査から約 30 年が経過し、現在所在不明の資料もある⁶。本稿の目録に記載した資料は、「藤間家の磁器」で報告された資料のうち、今回の調査で改めて実物を確認できたものである。

凡例

- (1) 目録の内容は 2020 年 2 月までの調査結果に基づく。
- (2) 資料を磁器と陶器に大別し、皿・鉢・碗・猪口・その他の順に配列した。
- (3) 資料の名称は、技法、文様、器形、器種の順に構成している。例えば「染付大根文輪花皿」の場合、「染付」は技法、「大根文」は文様、「輪花」は器形、「皿」は器種を表している。さらに、口径 300mm 以上の皿と鉢を大皿と大鉢、口径 120mm 未満の皿を小皿とした。
- (4) 資料の寸法は、陶磁器は口径・器高・底径あるいは高台径を、箱は幅・奥行・高さをそれぞれミリ単位で表示した。
- (5) 銘や焼き接ぎのある資料、既刊の文献⁷に取り上げられている資料は備考欄にその旨を記載した。

用語解説⁸

(1) 色絵

上絵付(陶磁器の釉面に上絵具で筆彩し、焼き付けること)陶磁の総称。

(2) 印判手

型紙や印判などで陶磁器に同一の文様を施す装飾の総称。江戸時代には型紙摺りとコンニャク印判があり、明治時代以降は型紙印判・銅版転写・ゴム判絵付けなどがある。

(3) 渦福銘

角形の枠取りの中に「福」字銘を入れた角福銘の傍の「田」が渦を卷いたもの。18 世紀になると徐々に粗略な書き方に変化し、18 世紀後半にはほとんど姿を消す。

(4) 金彩

金を加飾に用いた技法、およびその製品の総称。

(5) 染付

釉下彩の一つで、酸化コバルトを主成分とする絵具で素焼きした素地の上に図様を表し、透明釉を施して焼成する技法、およびその製品。

(6) 高台

器皿の底部で、器体を支える受け皿。多くは円形か楕円形に作る。

(7) 志田焼

佐賀県嬉野市塩田町久間で焼かれた陶磁器。久間焼ともいう。

(8) 見込

皿・鉢・碗など、鉢開き形の器の内面のこと。特に中心部を指す場合もある。

(9) 珉平焼

兵庫県南あわじ市伊賀野で焼かれた陶器。賀集珉平が文政年間(1818~1831)に開窯。珉平没後は甥の三平に受け継がれたが経営に行き詰まり、1883年には淡陶社や淡路製陶会社に技術が引き継がれ、外国輸出を増加しながら昭和初期まで操業した。

(10) 焼き接ぎ

割れた磁器の断面に白玉(鉛ガラス粉)を塗って接合し、低温度で焼成して密着させる技術。江戸末期から三都だけでなく地方都市でも行われた。下限は明治期で、大正以降はほとんど見られなくなった。

(11) 稜花

器皿の口縁装飾法の一つで、円形の器の口縁に

規則的な切込みを入れ、その一単位の先端が尖った蓮弁を繋いだような形態。

おわりに

旧藤間家住宅資料の陶磁器は、本稿で紹介した資料の他にも、近現代に生産された食器や花器も含めてまだ相当数が残っている。それらも藤間家、および地域の歴史や生活の推移を知るうえで欠かさない資料であり、今後も調査を進めて全容を明らかにする必要がある。

調査にあたっては、元文化資料館学芸員の平野文明氏に多くのご教示をいただいた。ここに記して御礼申し上げます。

1 茅ヶ崎市文化資料館 学芸員

2 茅ヶ崎市史編集委員会編 2017『市制施行 70 周年 記念 茅ヶ崎を彩った 70 人 ゆかりの人物で たどる歴史風土』茅ヶ崎市 12・13 頁

3 史跡「藤間家(近世商家)屋敷跡」

4 登録有形文化財「藤間家住宅主屋」

5 鹿野覚雄ほか 1993「藤間家の磁器」『文化資料館調査研究報告』1 茅ヶ崎市教育委員会 31-46 頁

6 前掲註 5 31 頁より、「No.8 染付麻の葉文隅入角皿」、「No.10 染付唐草見込牡丹花文隅入長皿」、「No.13 染付唐人文盃洗」、「No.16 染付飛龍文鉢」、「色絵桐花文鉢(口縁部疵)」、「染付山水文箸立」、「白磁唐獅子文根付」の 7 点。

7 前掲註 5、および神奈川県立博物館編 1978『特別展 日本の民窯 暮らしのやきもの』神奈川県立博物館

8 矢部良明ほか編 2011『角川日本陶磁大辞典 普及版』角川学芸出版 を参考とした。

番号	資料名	寸法(mm)	生産地	生産時期	備考
1	染付唐草文大皿	口径455 器高80 高台径225	肥前	18世紀後半～19世紀初	高台内に篆書体「福」銘あり。「藤間家の磁器」に「No.1 染付唐草文大皿」として掲載。
2	染付松竹梅牡丹唐草文大皿	口径356 器高60 高台径219	肥前	18世紀後半	高台内に「大明成/化年製」銘あり。「藤間家の磁器」に「No.3 染付牡丹花文大皿」として掲載。
3	染付鯉文稜花大皿	口径350 器高60 高台径190	肥前(志田焼)	19世紀	高台内に「乾」銘あり。「藤間家の磁器」に「No.4 染付鯉文十二角大皿」として掲載。
4	染付菊竹文大皿	口径355 器高41 高台径193	肥前	19世紀中期	焼き接ぎあり。高台内に「六や」と朱書銘あり。「藤間家の磁器」に「染付菊竹文大皿」として名称のみ掲載。
5	染付大根文輪花皿	口径213 器高30 高台径141	肥前	18世紀後半～19世紀中期	高台内に「大明成/化年製」銘あり。「藤間家の磁器」に「No.5 染付大根文中皿」として同型15点のうち1点を掲載。
6	染付大根文輪花皿	口径214 器高32 高台径143	肥前	18世紀後半～19世紀中期	高台内に「大明成/化年製」銘あり。「藤間家の磁器」に「No.5 染付大根文中皿」として同型15点のうち1点を掲載。
7	染付大根文輪花皿	口径211 器高31 高台径140	肥前	18世紀後半～19世紀中期	高台内に「大明成/化年製」銘あり。「藤間家の磁器」に「No.5 染付大根文中皿」として同型15点のうち1点を掲載。
8	染付大根文輪花皿	口径214 器高30 高台径141	肥前	18世紀後半～19世紀中期	高台内に「大明成/化年製」銘あり。焼き接ぎあり。「藤間家の磁器」に「No.5 染付大根文中皿」として同型15点のうち1点を掲載。
9	染付大根文輪花皿	口径213 器高33 高台径140	肥前	18世紀後半～19世紀中期	高台内に「大明成/化年製」銘あり。「藤間家の磁器」に「No.5 染付大根文中皿」として同型15点のうち1点を掲載。
10	染付大根文輪花皿	口径210 器高34 高台径144	肥前	18世紀後半～19世紀中期	高台内に「大明成/化年製」銘あり。「藤間家の磁器」に「No.5 染付大根文中皿」として同型15点のうち1点を掲載。
11	染付大根文輪花皿	口径213 器高30 高台径142	肥前	18世紀後半～19世紀中期	高台内に「大明成/化年製」銘あり。「藤間家の磁器」に「No.5 染付大根文中皿」として同型15点のうち1点を掲載。
12	染付大根文輪花皿	口径210 器高29 高台径147	肥前	18世紀後半～19世紀中期	高台内に「大明成/化年製」銘あり。「藤間家の磁器」に「No.5 染付大根文中皿」として同型15点のうち1点を掲載。
13	染付大根文輪花皿	口径213 器高32 高台径143	肥前	18世紀後半～19世紀中期	高台内に「大明成/化年製」銘あり。「藤間家の磁器」に「No.5 染付大根文中皿」として同型15点のうち1点を掲載。
14	染付大根文輪花皿	口径215 器高30 高台径140	肥前	18世紀後半～19世紀中期	高台内に「大明成/化年製」銘あり。「藤間家の磁器」に「No.5 染付大根文中皿」として同型15点のうち1点を掲載。
15	染付大根文輪花皿	口径212 器高29 高台径140	肥前	18世紀後半～19世紀中期	高台内に「大明成/化年製」銘あり。「藤間家の磁器」に「No.5 染付大根文中皿」として同型15点のうち1点を掲載。
16	染付大根文輪花皿	口径212 器高32 高台径141	肥前	18世紀後半～19世紀中期	高台内に「大明成/化年製」銘あり。「藤間家の磁器」に「No.5 染付大根文中皿」として同型15点のうち1点を掲載。
17	染付大根文輪花皿	口径216 器高30 高台径142	肥前	18世紀後半～19世紀中期	高台内に「大明成/化年製」銘あり。「藤間家の磁器」に「No.5 染付大根文中皿」として同型15点のうち1点を掲載。
18	染付大根文輪花皿	口径212 器高31 高台径145	肥前	18世紀後半～19世紀中期	高台内に「大明成/化年製」銘あり。「藤間家の磁器」に「No.5 染付大根文中皿」として同型15点のうち1点を掲載。
19	染付大根文輪花皿	口径210 器高33 高台径140	肥前	18世紀後半～19世紀中期	高台内に「大明成/化年製」銘あり。焼き接ぎあり。「藤間家の磁器」に「No.5 染付大根文中皿」として同型15点のうち1点を掲載。
20	色絵松竹梅文輪花皿	口径257 器高40 高台径164	肥前	18世紀後半	高台内に「大明成/化年製」銘あり。「藤間家の磁器」に「No.6 色絵青磁松竹梅文輪花中皿」として掲載。
21	染付山水文輪花皿	口径287 器高50 高台径168	肥前	19世紀中期	「藤間家の磁器」に「染付山水文中皿」として名称のみ掲載。
22	色絵金彩牡丹菊梅山水文十角皿	口径265 器高50 高台径155	肥前	18世紀前半	高台内に「大明成/化年製」銘あり。「藤間家の磁器」に「No.7 色絵牡丹菊梅山水文十角皿」として掲載。『日本の民窯』に「28 色絵皿(伊万里)」として掲載。

23	染付陽刻魚形皿	口径255×128 器高40 高台径178	肥前	18世紀中期～19世紀中期	高台内に「富貴長春」銘を十字に配す。同型20点のうち9点に銘あり。「藤間家の磁器」に「No.9 染付陽刻魚形皿」として、有銘9点のうち1点を掲載。『日本の民窯』に「33 染付魚形皿(伊万里)」として掲載。
24	染付陽刻魚形皿	口径253×130 器高47 高台径175	肥前	18世紀中期～19世紀中期	高台内に「富貴長春」銘を十字に配す。同型20点のうち9点に銘あり。「藤間家の磁器」に「No.9 染付陽刻魚形皿」として、有銘9点のうち1点を掲載。『日本の民窯』に「33 染付魚形皿(伊万里)」として掲載。
25	染付陽刻魚形皿	口径260×122 器高45 高台径177	肥前	18世紀中期～19世紀中期	高台内に「富貴長春」銘を十字に配す。同型20点のうち9点に銘あり。「藤間家の磁器」に「No.9 染付陽刻魚形皿」として、有銘9点のうち1点を掲載。『日本の民窯』に「33 染付魚形皿(伊万里)」として掲載。
26	染付陽刻魚形皿	口径258×120 器高45 高台径175	肥前	18世紀中期～19世紀中期	高台内に「富貴長春」銘を十字に配す。同型20点のうち9点に銘あり。「藤間家の磁器」に「No.9 染付陽刻魚形皿」として、有銘9点のうち1点を掲載。『日本の民窯』に「33 染付魚形皿(伊万里)」として掲載。
27	染付陽刻魚形皿	口径252×117 器高47 高台径177	肥前	18世紀中期～19世紀中期	高台内に「富貴長春」銘を十字に配す。同型20点のうち9点に銘あり。「藤間家の磁器」に「No.9 染付陽刻魚形皿」として、有銘9点のうち1点を掲載。『日本の民窯』に「33 染付魚形皿(伊万里)」として掲載。
28	染付陽刻魚形皿	口径258×130 器高43 高台径178	肥前	18世紀中期～19世紀中期	高台内に「富貴長春」銘を十字に配す。同型20点のうち9点に銘あり。「藤間家の磁器」に「No.9 染付陽刻魚形皿」として、有銘9点のうち1点を掲載。『日本の民窯』に「33 染付魚形皿(伊万里)」として掲載。
29	染付陽刻魚形皿	口径253×120 器高43 高台径175	肥前	18世紀中期～19世紀中期	高台内に「富貴長春」銘を十字に配す。同型20点のうち9点に銘あり。「藤間家の磁器」に「No.9 染付陽刻魚形皿」として、有銘9点のうち1点を掲載。『日本の民窯』に「33 染付魚形皿(伊万里)」として掲載。
30	染付陽刻魚形皿	口径255×120 器高47 高台径178	肥前	18世紀中期～19世紀中期	高台内に「富貴長春」銘を十字に配す。同型20点のうち9点に銘あり。「藤間家の磁器」に「No.9 染付陽刻魚形皿」として、有銘9点のうち1点を掲載。『日本の民窯』に「33 染付魚形皿(伊万里)」として掲載。
31	染付陽刻魚形皿	口径255×120 器高50 高台径180	肥前	18世紀中期～19世紀中期	高台内に「富貴長春」銘を十字に配す。同型20点のうち9点に銘あり。「藤間家の磁器」に「No.9 染付陽刻魚形皿」として、有銘9点のうち1点を掲載。『日本の民窯』に「33 染付魚形皿(伊万里)」として掲載。
32	染付陽刻魚形皿	口径256×122 器高43 高台径172	肥前	18世紀中期～19世紀中期	銘なし。同型20点のうち9点に銘あり。「藤間家の磁器」に「No.9 染付陽刻魚形皿」として、有銘9点のうち1点を掲載。『日本の民窯』に「33 染付魚形皿(伊万里)」として掲載。
33	染付陽刻魚形皿	口径258×120 器高44 高台径173	肥前	18世紀中期～19世紀中期	銘なし。同型20点のうち9点に銘あり。「藤間家の磁器」に「No.9 染付陽刻魚形皿」として、有銘9点のうち1点を掲載。『日本の民窯』に「33 染付魚形皿(伊万里)」として掲載。
34	染付陽刻魚形皿	口径250×125 器高45 高台径176	肥前	18世紀中期～19世紀中期	銘なし。同型20点のうち9点に銘あり。「藤間家の磁器」に「No.9 染付陽刻魚形皿」として、有銘9点のうち1点を掲載。『日本の民窯』に「33 染付魚形皿(伊万里)」として掲載。
35	染付陽刻魚形皿	口径252×114 器高45 高台径173	肥前	18世紀中期～19世紀中期	銘なし。同型20点のうち9点に銘あり。「藤間家の磁器」に「No.9 染付陽刻魚形皿」として、有銘9点のうち1点を掲載。『日本の民窯』に「33 染付魚形皿(伊万里)」として掲載。
36	染付陽刻魚形皿	口径250×117 器高50 高台径180	肥前	18世紀中期～19世紀中期	銘なし。同型20点のうち9点に銘あり。「藤間家の磁器」に「No.9 染付陽刻魚形皿」として、有銘9点のうち1点を掲載。『日本の民窯』に「33 染付魚形皿(伊万里)」として掲載。

37	染付陽刻魚形皿	口径255×123 器高45 高台径180	肥前	18世紀中期～19世紀中期	銘なし。同型20点のうち9点に銘あり。「藤間家の磁器」に「No.9 染付陽刻魚形皿」として、有銘9点のうち1点を掲載。『日本の民窯』に「33 染付魚形皿(伊万里)」として掲載。
38	染付陽刻魚形皿	口径250×130 器高46 高台径180	肥前	18世紀中期～19世紀中期	銘なし。同型20点のうち9点に銘あり。「藤間家の磁器」に「No.9 染付陽刻魚形皿」として、有銘9点のうち1点を掲載。『日本の民窯』に「33 染付魚形皿(伊万里)」として掲載。
39	染付陽刻魚形皿	口径260×125 器高44 高台径176	肥前	18世紀中期～19世紀中期	銘なし。同型20点のうち9点に銘あり。「藤間家の磁器」に「No.9 染付陽刻魚形皿」として、有銘9点のうち1点を掲載。『日本の民窯』に「33 染付魚形皿(伊万里)」として掲載。
40	染付陽刻魚形皿	口径250×120 器高43 高台径180	肥前	18世紀中期～19世紀中期	銘なし。同型20点のうち9点に銘あり。「藤間家の磁器」に「No.9 染付陽刻魚形皿」として、有銘9点のうち1点を掲載。『日本の民窯』に「33 染付魚形皿(伊万里)」として掲載。
41	染付陽刻魚形皿	口径252×115 器高45 高台径175	肥前	18世紀中期～19世紀中期	銘なし。同型20点のうち9点に銘あり。「藤間家の磁器」に「No.9 染付陽刻魚形皿」として、有銘9点のうち1点を掲載。『日本の民窯』に「33 染付魚形皿(伊万里)」として掲載。
42	染付陽刻魚形皿	口径253×115 器高50 高台径175	肥前	18世紀中期～19世紀中期	銘なし。同型20点のうち9点に銘あり。「藤間家の磁器」に「No.9 染付陽刻魚形皿」として、有銘9点のうち1点を掲載。『日本の民窯』に「33 染付魚形皿(伊万里)」として掲載。
43	染付枇杷蝙蝠文木瓜形皿	口径154 器高37 高台径79	肥前	不明	高台内に盤長文あり。「藤間家の磁器」に「No.11 染付枇杷蝙蝠文木瓜形皿」として掲載。
44	染付草花文皿	口径143 器高40 高台径82	肥前	18世紀末～19世紀後半	高台内に渦「福」銘と朱書銘(3文字)、墨書銘(2文字が2行)あり。「藤間家の磁器」に「染付草花文皿」として名称のみ掲載。
45	染付陽刻魚文角小皿	口径91×73 器高24 高台径58×37	不明	不明	「藤間家の磁器」に「No.12 染付陽刻魚文小皿」として同型10点のうち1点を掲載。
46	染付陽刻魚文角小皿	口径94×72 器高22 高台径57×38	不明	不明	「藤間家の磁器」に「No.12 染付陽刻魚文小皿」として同型10点のうち1点を掲載。
47	染付陽刻魚文角小皿	口径93×71 器高21 高台径57×38	不明	不明	「藤間家の磁器」に「No.12 染付陽刻魚文小皿」として同型10点のうち1点を掲載。
48	染付陽刻魚文角小皿	口径91×71 器高22 高台径57×38	不明	不明	「藤間家の磁器」に「No.12 染付陽刻魚文小皿」として同型10点のうち1点を掲載。
49	染付陽刻魚文角小皿	口径91×72 器高22 高台径57×38	不明	不明	「藤間家の磁器」に「No.12 染付陽刻魚文小皿」として同型10点のうち1点を掲載。
50	染付陽刻魚文角小皿	口径90×72 器高22 高台径56×38	不明	不明	「藤間家の磁器」に「No.12 染付陽刻魚文小皿」として同型10点のうち1点を掲載。
51	染付陽刻魚文角小皿	口径91×70 器高22 高台径57×38	不明	不明	「藤間家の磁器」に「No.12 染付陽刻魚文小皿」として同型10点のうち1点を掲載。
52	染付陽刻魚文角小皿	口径90×71 器高22 高台径57×38	不明	不明	「藤間家の磁器」に「No.12 染付陽刻魚文小皿」として同型10点のうち1点を掲載。
53	染付陽刻魚文角小皿	口径92×73 器高24 高台径58×38	不明	不明	「藤間家の磁器」に「No.12 染付陽刻魚文小皿」として同型10点のうち1点を掲載。
54	染付陽刻魚文角小皿	口径91×70 器高22 高台径57×38	不明	不明	「藤間家の磁器」に「No.12 染付陽刻魚文小皿」として同型10点のうち1点を掲載。
55	染付草花文稜花小皿	口径104 器高25 高台径64	肥前	18世紀中期～19世紀中期	高台内に「福」銘あり。「藤間家の磁器」に「染付草花文小皿2枚」として名称のみ掲載。『日本の民窯』に「35 染付小皿(伊万里)宝暦12年銘箱入」として掲載。現在箱なし。
56	染付草花文稜花小皿	口径102 器高25 高台径64	肥前	18世紀中期～19世紀中期	高台内に「福」銘あり。「藤間家の磁器」に「染付草花文小皿2枚」として名称のみ掲載。『日本の民窯』に「35 染付小皿(伊万里)宝暦12年銘箱入」として掲載。現在箱なし。
57	黄釉陰刻双龍雲文小皿	口径90 器高19 高台径53	淡路(珉平焼)	19世紀前期～19世紀後期	高台脇に「珉平」銘あり。「藤間家の磁器」に「黄釉龍文小皿7枚(陶器 珉平焼)」として名称のみ掲載されているが、焼成不良品を含め同型8点あり。

58	黄釉陰刻双龍靈雲文小皿	口径90 器高20 高台径54	淡路(珉平焼)	19世紀前期～19世紀後期	高台脇に「珉平」銘あり。「藤間家の磁器」に「黄釉龍文小皿7枚(陶器 珉平焼)」として名称のみ掲載されているが、焼成不良品を含め同型8点あり。
59	黄釉陰刻双龍靈雲文小皿	口径91 器高19 高台径54	淡路(珉平焼)	19世紀前期～19世紀後期	高台脇に「珉平」銘あり。「藤間家の磁器」に「黄釉龍文小皿7枚(陶器 珉平焼)」として名称のみ掲載されているが、焼成不良品を含め同型8点あり。
60	黄釉陰刻双龍靈雲文小皿	口径89 器高19 高台径54	淡路(珉平焼)	19世紀前期～19世紀後期	銘なし。「藤間家の磁器」に「黄釉龍文小皿7枚(陶器 珉平焼)」として名称のみ掲載されているが、焼成不良品を含め同型8点あり。
61	黄釉陰刻双龍靈雲文小皿	口径92 器高18 高台径53	淡路(珉平焼)	19世紀前期～19世紀後期	銘なし。「藤間家の磁器」に「黄釉龍文小皿7枚(陶器 珉平焼)」として名称のみ掲載されているが、焼成不良品を含め同型8点あり。
62	黄釉陰刻双龍靈雲文小皿	口径90 器高19 高台径55	淡路(珉平焼)	19世紀前期～19世紀後期	銘なし。「藤間家の磁器」に「黄釉龍文小皿7枚(陶器 珉平焼)」として名称のみ掲載されているが、焼成不良品を含め同型8点あり。
63	黄釉陰刻双龍靈雲文小皿	口径90 器高18 高台径54	淡路(珉平焼)	19世紀前期～19世紀後期	銘なし。「藤間家の磁器」に「黄釉龍文小皿7枚(陶器 珉平焼)」として名称のみ掲載されているが、焼成不良品を含め同型8点あり。
64	黄釉陰刻双龍靈雲文小皿	口径91 器高18 高台径53	淡路(珉平焼)	19世紀前期～19世紀後期	焼成不良品のため銘の有無は不明。「藤間家の磁器」に「黄釉龍文小皿7枚(陶器 珉平焼)」として名称のみ掲載されているが、本資料を含め同型8点あり。
65	染付松竹梅渦卷文大鉢	口径360 器高77 高台径204	肥前	18世紀	高台内に「太明成/化年製」銘あり。「藤間家の磁器」に「No.2 染付牡丹唐草文大皿」として掲載。
66	染付椿に富士三保松原文平鉢	口径295 器高75 高台径168	肥前	19世紀中期	高台内に銘あり。「藤間家の磁器」に「No.14 染付山水に椿文鉢」として掲載。
67	色絵窓絵草花文雪輪形鉢	口径217 器高52 高台径128	肥前	18世紀後半	高台内に「富貴長春」銘を十字に配す。「藤間家の磁器」に「No.17 色絵窓絵草花文雪輪鉢」として掲載。『日本の民窯』に「29 色絵鉢(伊万里)」として掲載。
68	色絵金彩芹文輪花鉢	口径149 器高47 高台径79	肥前	19世紀中期	「藤間家の磁器」に「No.18 染錦芹花文鉢」として同型5点のうち1点を掲載。
69	色絵金彩芹文輪花鉢	口径145 器高44 高台径82	肥前	19世紀中期	「藤間家の磁器」に「No.18 染錦芹花文鉢」として同型5点のうち1点を掲載。
70	色絵金彩芹文輪花鉢	口径146 器高47 高台径80	肥前	19世紀中期	「藤間家の磁器」に「No.18 染錦芹花文鉢」として同型5点のうち1点を掲載。
71	色絵金彩芹文輪花鉢	口径146 器高45 高台径80	肥前	19世紀中期	「藤間家の磁器」に「No.18 染錦芹花文鉢」として同型5点のうち1点を掲載。
72	色絵金彩芹文輪花鉢	口径142 器高45 高台径80	肥前	19世紀中期	「藤間家の磁器」に「No.18 染錦芹花文鉢」として同型5点のうち1点を掲載。
73	染付樹下唐子文鉢	口径255 器高60 高台径105	肥前	19世紀中期	「藤間家の磁器」に「No.15 染付樹下唐子文鉢」として掲載。
74	染付唐草文鉢	口径240 器高100 高台径100	不明	19世紀後半～20世紀初	合成コバルトによる絵付け。「藤間家の磁器」に「染付唐草文鉢(コバルト染付)」として名称のみ掲載。
75	色絵唐子嬉戯文蓋付碗	碗:口径113 器高64 高台径44 蓋:口径104 器高27 高台径41	肥前	18世紀中期～19世紀中期	碗と蓋の高台内に「萬暦/年製」銘あり。碗に焼き接ぎあり。「藤間家の磁器」に「No.19 色絵唐子嬉戯文蓋付碗」として掲載。『日本の民窯』に「31 色絵蓋付飯碗(伊万里) 文政2年銘木箱入」として掲載。現在箱なし。
76	染付草花文碗	口径153 器高69 高台径47	不明	19世紀後半	高台内に「大日本」銘あり。「藤間家の磁器」に「染付草花文碗2個」として名称のみ掲載。
77	染付草花文碗	口径153 器高65 高台径50	不明	19世紀後半	高台内に「大日本」銘あり。「藤間家の磁器」に「染付草花文碗2個」として名称のみ掲載。
78	牡丹唐草文碗	口径111 器高60 高台径45	肥前	19世紀中期	「藤間家の磁器」に「牡丹花文碗(口縁に小疵)」として名称のみ掲載。
79	染付丸散文碗	口径105 器高54 高台径39	肥前	19世紀中期	焼き接ぎあり。高台内に朱書銘「柳島/新や」あり。「藤間家の磁器」に「染付丸文碗(焼継あり)」として名称のみ掲載。

80	染付龍文六角猪口	口径86 器高63 高台径51	肥前	18世紀か	箱付き(95番)。「藤間家の磁器」に「No.20 染付龍文六角猪口」として同型15点のうち1点を掲載。
81	染付龍文六角猪口	口径88 器高63 高台径50	肥前	18世紀か	箱付き(95番)。「藤間家の磁器」に「No.20 染付龍文六角猪口」として同型15点のうち1点を掲載。
82	染付龍文六角猪口	口径87 器高63 高台径51	肥前	18世紀か	箱付き(95番)。「藤間家の磁器」に「No.20 染付龍文六角猪口」として同型15点のうち1点を掲載。
83	染付龍文六角猪口	口径89 器高63 高台径52	肥前	18世紀か	箱付き(95番)。「藤間家の磁器」に「No.20 染付龍文六角猪口」として同型15点のうち1点を掲載。
84	染付龍文六角猪口	口径87 器高63 高台径51	肥前	18世紀か	箱付き(95番)。「藤間家の磁器」に「No.20 染付龍文六角猪口」として同型15点のうち1点を掲載。
85	染付龍文六角猪口	口径89 器高64 高台径51	肥前	18世紀か	箱付き(95番)。「藤間家の磁器」に「No.20 染付龍文六角猪口」として同型15点のうち1点を掲載。
86	染付龍文六角猪口	口径86 器高63 高台径51	肥前	18世紀か	箱付き(95番)。「藤間家の磁器」に「No.20 染付龍文六角猪口」として同型15点のうち1点を掲載。
87	染付龍文六角猪口	口径90 器高63 高台径52	肥前	18世紀か	箱付き(95番)。「藤間家の磁器」に「No.20 染付龍文六角猪口」として同型15点のうち1点を掲載。
88	染付龍文六角猪口	口径89 器高63 高台径50	肥前	18世紀か	箱付き(95番)。「藤間家の磁器」に「No.20 染付龍文六角猪口」として同型15点のうち1点を掲載。
89	染付龍文六角猪口	口径82 器高63 高台径52	肥前	18世紀か	箱付き(95番)。「藤間家の磁器」に「No.20 染付龍文六角猪口」として同型15点のうち1点を掲載。
90	染付龍文六角猪口	口径78 器高63 高台径50	肥前	18世紀か	箱付き(95番)。「藤間家の磁器」に「No.20 染付龍文六角猪口」として同型15点のうち1点を掲載。
91	染付龍文六角猪口	口径78 器高63 高台径43	肥前	18世紀か	箱付き(95番)。「藤間家の磁器」に「No.20 染付龍文六角猪口」として同型15点のうち1点を掲載。
92	染付龍文六角猪口	口径79 器高64 高台径50	肥前	18世紀か	箱付き(95番)。「藤間家の磁器」に「No.20 染付龍文六角猪口」として同型15点のうち1点を掲載。
93	染付龍文六角猪口	口径77 器高65 高台径49	肥前	18世紀か	箱付き(95番)。「藤間家の磁器」に「No.20 染付龍文六角猪口」として同型15点のうち1点を掲載。
94	染付龍文六角猪口	口径78 器高63 高台径49	肥前	18世紀か	箱付き(95番)。「藤間家の磁器」に「No.20 染付龍文六角猪口」として同型15点のうち1点を掲載。
95	木箱	幅221 奥行221 高さ219		天保13年(1842)	側面2面にそれぞれ「天保十三寅年/仲冬日/六角新唐/猪口式拾入」「柳島/藤間/善五郎/代々重具也」と墨書あり。80～94番を収納。
96	染付松竹梅文輪花猪口	口径80 器高65 高台径62	肥前	19世紀中期	箱付き(106番)だが転用。「藤間家の磁器」に「No.21 染付松竹梅文猪口」として同型10点のうち1点を掲載(掲載写真には10点全て写っている)。
97	染付松竹梅文輪花猪口	口径80 器高62 高台径61	肥前	19世紀中期	箱付き(106番)だが転用。「藤間家の磁器」に「No.21 染付松竹梅文猪口」として同型10点のうち1点を掲載(掲載写真には10点全て写っている)。
98	染付松竹梅文輪花猪口	口径83 器高66 高台径61	肥前	19世紀中期	箱付き(106番)だが転用。「藤間家の磁器」に「No.21 染付松竹梅文猪口」として同型10点のうち1点を掲載(掲載写真には10点全て写っている)。
99	染付松竹梅文輪花猪口	口径81 器高66 高台径60	肥前	19世紀中期	箱付き(106番)だが転用。「藤間家の磁器」に「No.21 染付松竹梅文猪口」として同型10点のうち1点を掲載(掲載写真には10点全て写っている)。
100	染付松竹梅文輪花猪口	口径81 器高65 高台径63	肥前	19世紀中期	箱付き(106番)だが転用。「藤間家の磁器」に「No.21 染付松竹梅文猪口」として同型10点のうち1点を掲載(掲載写真には10点全て写っている)。

101	染付松竹梅文輪花猪口	口径81 器高65 高台径61	肥前	19世紀中期	箱付き(106番)だが転用。「藤間家の磁器」に「No.21 染付松竹梅文猪口」として同型10点のうち1点を掲載(掲載写真には10点全て写っている)。
102	染付松竹梅文輪花猪口	口径81 器高62 高台径60	肥前	19世紀中期	箱付き(106番)だが転用。「藤間家の磁器」に「No.21 染付松竹梅文猪口」として同型10点のうち1点を掲載(掲載写真には10点全て写っている)。
103	染付松竹梅文輪花猪口	口径81 器高65 高台径60	肥前	19世紀中期	箱付き(106番)だが転用。「藤間家の磁器」に「No.21 染付松竹梅文猪口」として同型10点のうち1点を掲載(掲載写真には10点全て写っている)。
104	染付松竹梅文輪花猪口	口径80 器高66 高台径60	肥前	19世紀中期	箱付き(106番)だが転用。「藤間家の磁器」に「No.21 染付松竹梅文猪口」として同型10点のうち1点を掲載(掲載写真には10点全て写っている)。
105	染付松竹梅文輪花猪口	口径83 器高64 高台径62	肥前	19世紀中期	箱付き(106番)だが転用。「藤間家の磁器」に「No.21 染付松竹梅文猪口」として同型10点のうち1点を掲載(掲載写真には10点全て写っている)。
106	木箱	幅274 奥行121 高さ230		不明	側面2面にそれぞれ「實金出/茗碗 五人前」「唐草/茗碗 五人前」と墨書あり。96～105番を収納するが転用。
107	染付蘭花文猪口	口径91 器高78 高台径71	肥前	19世紀中期	「藤間家の磁器」に「染付蘭花文猪口」として名称のみ掲載。
108	染付瓢箪文德利	口径34 器高225 高台径70	肥前	19世紀中期	「藤間家の磁器」に「No.22 染付瓢箪文德利」として掲載。『日本の民窯』に「32 染付德利(伊万里)」として掲載。
109	色絵鶯文組盃(大)	口径90 器高32 高台径27	不明	19世紀後半～20世紀	3点組のうち大。見込に「銀月」銘あり。「藤間家の磁器」に「色絵鶯文組盃(3枚組)」として名称のみ掲載。
110	色絵鶯文組盃(中)	口径82 器高29 高台径29	不明	19世紀後半～20世紀	3点組のうち中。見込に「銀月」銘あり。「藤間家の磁器」に「色絵鶯文組盃(3枚組)」として名称のみ掲載。
111	色絵鶯文組盃(小)	口径76 器高26 高台径27	不明	19世紀後半～20世紀	3点組のうち小。見込に「銀月」銘あり。「藤間家の磁器」に「色絵鶯文組盃(3枚組)」として名称のみ掲載。
112	染付菊花文透彫り角形箸立	口径47×47 器高98 底径47×47	不明	19世紀後半～20世紀	「藤間家の磁器」に「染付菊花文透彫り箸立(口縁部欠損)」として名称のみ掲載。
113	印判染付桜牡丹文火鉢	口径180 器高175 底径180	不明	19世紀後半～20世紀初	「藤間家の磁器」に「銅板染付手あぶり」として名称のみ掲載。
114	染付山水文火鉢	口径277 器高266 底径200	不明	19世紀後半～20世紀	「藤間家の磁器」に「染付山水文火鉢1対」として名称のみ掲載。
115	染付山水文火鉢	口径277 器高272 底径200	不明	19世紀後半～20世紀	「藤間家の磁器」に「染付山水文火鉢1対」として名称のみ掲載。
116	色絵草花文香立	口径62 器高32 高台径30	不明	19世紀中期	高台内に墨書(2文字)あり。「藤間家の磁器」に「色絵草花文香立」として名称のみ掲載。
117	染付椿花文香立	口径87 器高56 底径55	肥前	19世紀中期	「藤間家の磁器」に「染付椿花文香立」として名称のみ掲載。
118	染付唐草文手桶形花器	口径120 器高250 底径83	肥前	19世紀	「藤間家の磁器」に「No.24 染付手桶形花器」として掲載。
119	色絵草花文油壺	口径22 器高42 底径73×74	肥前	18世紀後半	「藤間家の磁器」に「No.23 色絵草花文油壺」として掲載。『日本の民窯』に「30 色絵角水滴(伊万里)」として掲載。
120	白釉角形水滴	口径60×40 器高20 底径60×40	不明	不明	「藤間家の磁器」に「白磁陽刻花文水滴(御深井焼か?)」として名称のみ掲載。